

## 平成30年度ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒検定結果

表 平成30年度ヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率				
		調査地点 (供試個体数)	保毒虫率 (%)	(昨年度)
東部地域	加西市別府町	(94)	1.1	(0.0)
	加東市社町	(94)	4.3	(1.1)
	加東市滝野町	(94)	0.0	(1.1)
	西脇市黒田庄町	(94)	1.1	(0.0)
	多可町加美区	(94)	0.0	(0.0)
	加古川市志方町	(94)	2.1	(0.0)
	西部地域	神河町	(94)	2.1
	宍粟市山崎町	(94)	2.1	(3.3)
	佐用町	(94)	4.3	(1.1)
	上郡町	(94)	3.2	(4.4)
平均			2.0	(1.4)

供試虫:平成30年5月25日、5月29日、5月31日に小麦ほ場から採取した。  
 検定:簡易エライザ法による。平成30年6月7日～6月15日に実施した。

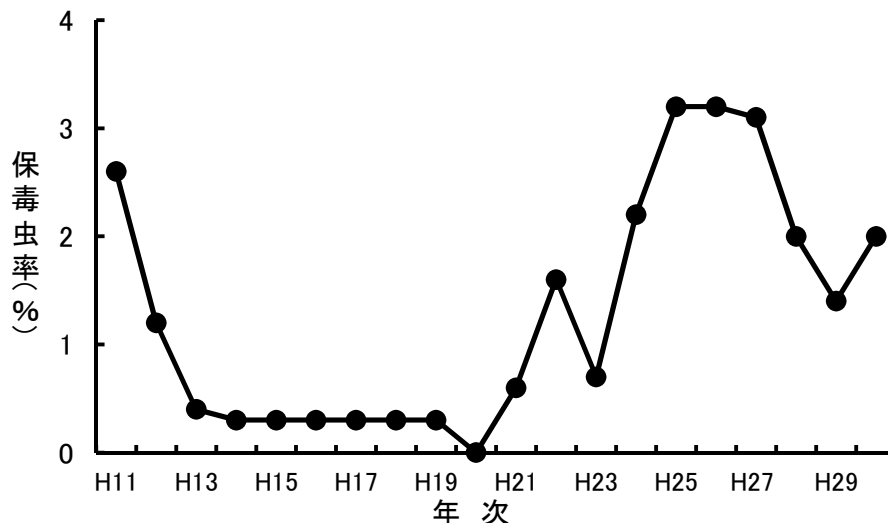


図 兵庫県におけるヒメトビウンカ(第1世代虫)のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の年次推移

平成21年以降、第1世代虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率が増加傾向にあり、水稻でのイネ縞葉枯病の多発を警戒している。

本年の第1世代虫(水稻へ飛び込む世代)の保毒虫率は、定点平均で2.0%と昨年(1.4%)に比べて若干高い値を示した。

5月下旬のすくい取り10回振りでは、幼虫9.0頭と平年の45.6頭よりも少ない発生量となっているが、今年度は発生が遅れていることから、今後、平年並みの発生量になることが予想される。さらに、上表の定点以外で高い保毒虫率を示す地域もあり(下記\*)、イネ縞葉枯病の発病には依然として注意が必要である。

水稻生育初期の発病株はその後の感染源となり、出穂期の発病を助長させるため、発病株をできる限り早く抜き取り、感染拡大を防止する。

\*姫路市: 10.6%(50.0頭)

地点名: 保毒虫率(すくい取り10回振り虫数)